



12月議会 総括質問 (坂本昌栄議員)

農作物の異常気象に対する今後の対策は

市長「市は対策本部を設置、県と連携して対応策強化に努める」

鶴岡市議会12月定例会が5日に開会され、日本共産党を代表して坂本昌栄議員が、①西目地内土砂災害、②農業、③インバウンド観光戦略、④かたくり温泉のトライアル事業について、総括質問を行いました。

西目土砂災害 今後の支援は



避難者にとってはこれで終わりとはならず、再開に向け支援が必要と考えるが、今後の支援について伺う。

市長 11月28日に全ての世帯が年内に帰宅する意向であった。避難者の健康観察に

ついては、11月30日に砂搬出車両が減り、現在、規制解除の具体的な

問 県道も、年内には土砂搬出車両が減り、現在、規制解除の具体的な

生徒が希望を持てる高校整備を

▽来年度、県立高校再編整備基本計画策定が予定されています。現行計画は2015年に策定されたもので、2024年度までの10カ年計画となっています。

田川地区ではこの間、2015年に山添高校が鶴岡南高校に統合され2020年に閉校。2022年に鶴岡南通信制と鶴岡工業定時制が廃止されて庄内総合高校に新設。2024年に鶴岡北高校と鶴岡南高校が統合されて致道館高校が致道館中学校と合わせて開設。等の再編が行われてきました。

▽山添校廃止と鶴岡市内にあった通信制・定時制の廃止は、細やかな支援を必要とする生徒への支援



庄内総合高校を視察

の縮小となりました。地区の上位進学校2校の中高一貫校化は受験競争の低年齢化、一貫中高での生徒の均質化、市立中学校との格差の発生等々が想定されます。

来年度の一貫中学の志願倍率は2.21倍といえます。120人の小学6年生が不合格を体験して、他の中学校に進むこととなります。市立中学校でのゆきとどいた支援と、一貫中学校に劣らぬ教育内容への充実が求められます。▽私はこれまでの再編の問題点を議会でも唯一指摘し反対してきました。今後、加茂水産高校と庄内農業高校・鶴岡中央高校の統合が検討されていますが、3校のあり方を大きく変えるものとなることは不可避です。高校生が希望を持てる整備・充実を求めていきます。

(県議 関 徹)

な時期等について調整を行っている。

工事スケジュールは、市発注工事では、今年度内にながれきの分別処分、及び民間所有地の整地を完了すべく作業を進めている。

県発注工事は現在、地すべりが発生した箇所(土砂)を取り除く作業が行われている。

その後、地下水排除工や斜面補強のための法枠工、水路の設置などを行う予定だ。

本市で土砂災害警戒区域に指定されている箇所は1015か所あり、今年度点検が行われている箇所数や、

異常気象の農作物への影響は

問 本市の今年8月の平均気温は29.6度、最高気温は38.7度、雨量は31.5mm、日照時間も例年1.5倍程度で318.1時間の酷暑だった。

本市の農作物における異常気象の影響と現状はどうか。

市長 水稲は、登熟期間中の高温少雨により白未熟粒が発生し、庄内全体で一等米比率が17.1%と大幅に低下している。

品種別では「はえぬき」が7.1%、「つや姫」が6.8%、「雪若丸」が6.2%となっている。

作況指数が99と「平年並み」だが、10ヶ当

今後の対応はどうか。市長 点検の結果、対策が必要な箇所(A)が当初1箇所は、復旧工事済みのためO、対策工事継続中の箇所(A1)が2箇所。経過観察が必要な箇所(B)は15箇所だが、1箇所は樹木伐採を行い、14箇所である。

来年度以降、住家に影響のある757箇所と、経過観察が必要な14箇所を含む150箇所を順次点検し、5年間ですべてを点検する予定だ。

対策が必要な箇所については、県と連携して対応を協議する。

たりの単収は前年比15kg減の582kgにとどまる。

そばは、開花期間中の高温により結実数が少なく、一部地域では市の標準単収の3割程度となっている。

大豆は「エンレイ」などの中生・晩生品種では概ね平年並みの見込みだが、早生品種の「リュウホウ」では早く黄化・落葉したことで子実が小さくなり、例年の4割程度の収量と見込まれる。

収量や品質に著しい低下があり、生産者にとって営農継続の意欲にも影響を及ぼしていることを認識している。

(2面につづく)

(1面のつづき)

問 今後の異常気象に対する品質や技術の対策はどうか。

市長 市では8月以降、農産物高温対策本部を設置し、関係機関と連携して、水管理の徹底や適期刈り取りなどの情報発信と、被害

インバウンドでオーバーツーリズム

問 観光需要は高まりを見せているが、東京や京都、大阪などには外国人観光客が押し寄せる一方、至るところでオーバーツーリズムも起きている。

本市におけるインバウンド観光の現状は。市長 本年1月から8月までの市内への外国人宿泊客数は約4000人で、コロナ禍前の令和元年と比べた場合は約5割であり、まだ復調している状況にはない。

8月から市の観光案

状況の集約や共有に努めた。

県では、高温に強い「雪若丸」の作付面積の拡大や、高温耐性を持つ品種開発の加速を検討しており、県と連携して高温への適応策の強化に努める。

内所などで実施している外国人来訪者調査では、欧米豪からの旅行者が約8割を占め、その多くが出羽三山を訪問している。

市内への宿泊日数は2泊が約4割、3泊が約2割であり、出羽三山以外の観光地への訪問が少ない状況だ。問 インバウンド観光を成功させるには、地域の魅力をいかに発信し、移動手段のバスやタクシー、宿泊所や飲食店、通訳等の確保が重要と考える。

「尖閣情勢激化感じず」海保発言を大手報じず

憲法と平和を考える市民のつどい

旧日本軍が、ハワイ真珠湾を攻撃し、太平洋戦争に突入した12月8日、「憲法と平和を考える市民のつどい『台湾有事』と『中国脅威論』を考える！」

市民集会在、出羽庄内



現在本市では人材手不足による観光バス、タクシー、飲食店の減少等、厳しい現状だ。

今後受け皿となる事業者の範囲を広げ、聞き取り調査や意見交換会等を検討するべきだが見解はどうか。市長 インバウンド拡大を重点に検討を進め、6月から3回にわたり、有識者や市内の観光関係者7人で構成

ばんぼ・ふつくら 今後の事業は

問 かたくり温泉ばんぼは、前棟本市長の下、平成28年度に閉館の方針が出され、行政目的をもたない普通財産となり、支援の範囲が狭められたことが、現在の状況を生み出した。

トリアル事業及び健康の里ふつくらへの介護予防事業についての評価と、今後の対応はどうか。市長 温泉入浴事業

する策定委員会を開催している。

7月に、欧米豪からの外国人が増加している出羽三山での現状と、課題について聞き取りを行った。

今年4回目の委員会を開催し、年明け1月には、幅広く意見交換を行い、プランをまとめ、2月にパブリックコメントを実施する。

多くの地域住民が集い、交流や憩いの場としての役割を果たしている。

隣接する健康の里ふつくらでの介護予防事業等も、温泉入浴と組み合わせた取組みが可能となったことで、新規参加者が増加している。

トリアル事業が契機となり、朝日地域における施設を活用した事業の必要性を改めて認識した。問 かたくり温泉施設の修繕及び点検経費として2413万6千円が計上されている。

木質チップポイラ―導入等の検討も行うべきと考えるかどうか。市長 12月に実施事業者の公募を行い、来年1月には実施事業者を選定する。

今回トリアルに参加した事業者も応募を予定し、来年4月からの再開に向けた準備を進めていきたい。

介護予防・健康増進事業等の継続ができるよう支援を行っていきたい。

木質チップポイラ―は、ゼロカーボンシティ宣言の推進や森林資源を活用したエネルギーの地産地消を進める観点からも重要と考えており、今後のポイラ―更新の検討の中で研究していく。

今回の修繕経費の主なもの、源泉から鉄分等を取り除くろ過装置、除鉄装置、源泉ポンプの交換修繕等であり、点検経費の主なもの、電気設備や熱交換器、貯湯槽の点検となっている。

建築課入札結果

12月7日入札分 (友江町23番2ほか)
・市大山コミュニティセンター第二期解体・外構工事 (入札11業者うち6業者辞退)
(株)三浦土建 123,900,000円 (124,400,000円) 工期~6/7/12 (落札率99.60%)

下水道課入札結果

12月5日入札分 (湯野浜一丁目地内)
・市公共下水道事業 宮嶋屋前マンホールポンプ場改良工事 (入札4業者うち2業者辞退)
(株)山本組 47,900,000円 (49,610,000円) 工期~6/3/29 (落札率96.55%)